

# 【高齢者のための】シリーズ

岩田健太郎医師・シリーズ総監修 超高齢社会における新たな臨床指南書。

世界一高齢化が進んだ日本で、なぜ老年医学(geriatrics)が一般化しないのか…? 研修カリキュラムでも「小児科」は選ばれても、「老年科」は選ばれない。小児医学と成人医学の違いはあっても、成人医学と老年医学を峻別する議論は起こらない。こうした疑問に応えるために、本シリーズは生まれた。岩田健太郎医師監修のもと、「ここに問題あり!」のテーマを選び、エッジの効いた臨床解説に加え、本音トークの座談会も収載。最新刊『高齢者のための糖尿病診療』は、病院、診療所、在宅のエキスパートが血糖管理と生活指導の真髄を語る。第4弾は『高齢者のための高血圧診療』(予定)。



## 高齢者のための糖尿病診療

岩田健太郎 監修・著 岩岡秀明・栗林伸一・高瀬義昌 著

A5判・194頁 定価(本体3,500円+税) ISBN978-4-621-30367-2

2025年問題を控え、入院病棟から在宅・施設への高齢者ケアの流れはもう必須。高齢者の5人に1人は糖尿病(DM)の時代、もはやDMは専門医だけの領域ではなく、究極のプライマリケアとなった。ならば、若い頃からDMの特性と高齢者へのご作法をマスターしておくのも一案。「血糖コントロールや合併症」「フレイルや易感染性」「ポリファーマシーや認知症」などなど、糖尿病診療の課題を考える前にまずは、この一冊。

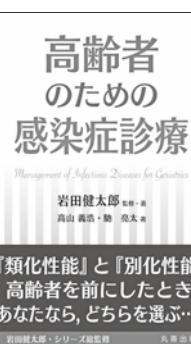


## 高齢者のための感染症診療

岩田健太郎 監修・著 高山義浩・馳亮太 著

A5判・180頁 定価(本体4,000円+税) ISBN978-4-621-30173-9

『類化性能』と『別化性能』、高齢者を前にしたとき、あなたなら、どちらを選ぶか。高齢者ならではの「Difference Point」(フレイル、免疫低下、水分量、腎機能など)を提示し、外来、在宅、施設等における感染症診療の「リアルパール」を解説。また、第4部「座談会」では、著者3名に集まってもらい、「2025年問題」や「HIV感染者の施設受入拒否」など、高齢社会を踏まえた本音トークが披露される。



## 高齢者のための漢方診療

岩田健太郎 監修 岩崎鋼・高山眞 著

A5判・154頁 定価(本体3,200円+税) ISBN978-4-621-30186-9

超高齢社会に必須の処方箋、それが漢方、伝統医学である。しかし漢方診療の世界は混迷を深めており、それだけにわかりにくいといわれる。今、老年医学会のガイドラインで漢方の章を担当した著者2人が世に問う「超高齢社会に生かす伝統医学」。著者岩崎鋼医師は認知症のBPSDに対する抑肝散の効果を世界に先駆けて発表するなど、漢方の進歩発展に卓越した業績を残した漢方界きっての「EBMer」であり、既存の漢方医学にとらわれない主張の斬新さと、「中医学」に基づいた漢方診療の世界を貫く孤高の漢方医。



## ●最新刊！『高齢者のための糖尿病診療』は、高齢者の「一般性」と「特殊性」に着目しています

### 8 高齢者糖尿病の薬物療法

ここが大事！薬物療法のreal point

- 1. 高齢者では「低血糖」と「腎機能低下」が薬剤選択のキモ
- 2. 高齢者では、SU薬はなるべく使用しない！
- 3. 75歳（原則）までは、禁忌でなければ「メトホルミン」
- 4. 76歳以上 and/or 腎不全の場合は、胆汁排泄型のDPP-4阻害薬
- 5. インスリンが必要な場合は、持続型インスリン（1回注射）と内服薬を併用
- 6. GLP-1受容体作動薬、特にデュラグリチドは週1回の注射でよい（低血糖リスクもなく、高齢者でも「OK」な薬剤）

1. 高齢者では「低血糖」と「腎機能低下」が薬剤選択  
2. 高齢者では、SU薬はなるべく使用しない！  
  
1980年代までは、糖尿病治療薬といえば、SU薬（スルホニウム・中強型と速効型）しかありませんでした。  
したがって、「2型糖尿病では、SU薬を最大用量不必要な場合に中間型インスリン1回から2回注射になります。  
そうした事情もあり、長年SU薬が広く使用されてきましたが、近年は特に「高齢者での重症低血糖」

Dr.岩岡が薬物療法の極意を、Dr.栗林が生活療法の心構えを、Dr.高瀬が在宅ケアの視野と留意点を語ります

### 15 座談会（臨床編）

ここが大事！糖尿病臨床のreal point

- 1. JDSは糖尿病薬使用に関する明確な指針を打ち出すべき
- 2. 薬物療法+生活療法がよいアクトカムのコツ
- 3. 「何が人を変えるのか…？」のつなぎを養う
- 4. 昔はHbA1c 6.5%以下、今は「なるべく低血糖を起こさない」
- 5. 私はこう考える。HbA1c値の目安

第三部は、本書のフィナーレともいべき座談会です。著者に集まつてもらい、「高齢者と糖尿病」「ガイドライン」「HbA1c」「新薬」などなど、さまざま切り口から語っていました。（臨床編）と（制度編）に分けて紹介します。

1. JDSは糖尿病薬使用に関する明確な指針を打ち出すべき

岩田 「高齢者のための」シリーズは、一般的な高齢者では、その特殊性と骨髄性の両方を踏まえたもので、専門的な知識をもつて、『感染症診療』『漢方診療』となりました。『漢方』は、漢方の意味で、糖尿病治療の立場で、司会を担当させていただきます。専門医のときは沖縄県立中部病院で1年半勤務して、糖尿病はどうかというと就急病院で、糖尿病を発症したばかりで、心筋梗塞やDKA（糖尿病ケトアシドーシス）を外来で経験したのですが、じつはそのときどのように治療すればいいのかよくわからなくて、その後アメリカへ内科研修に行きました。

148 第3部 症説会

### 10 高齢者糖尿病と感染症対策

ここが大事！感染症対策のreal point

- 1. 「易感染性」の一言で思考停止に陥らない
- 2. 感染症は診断が大事
- 3. 高齢者に「急性発症」が起きた場合、感染症を考える
- 4. 菌を治療しない、病気を治療する
- 5. 抗菌薬の薬理学的属性を理解する
- 6. 基本的な予防策を

1. 「易感染性」の一言で思考停止に陥らない  
糖尿病患者は、かつてはよく「易感染性」とカテゴライズされることが多いです。しかし、「易感染性」というのは「炎症」とか「倦怠感」みたいな漠然とした、あまりに漠然とした言葉です。具体的には「どのような易感染性なのか…？」、「どのくらいの易感染性なのか…？」を明確にする必要があります。

病原生物学的に申し上げるならば、糖尿病にともなう高血糖、インスリン耐性、アンドロームなどが「自然免疫（innate immunity）」、好中球遊走能、食食能など各種免疫機能を低下させます。

余談ですが、「自然免疫」というのは私の意見では「誤訳」でして、innateといふのは「生まれつきの」というような意味です。感染やワクチンによる免疫（acquired immunity）への対義語

Dr.岩田がDMの易感染性と感染症ケアの考え方を語ります

ためにはナチュラルな背景が先行し、「だからこそ」使われています。糖尿病足部やすくいの問題について、細胞透析

10 高齢者糖尿病と感染症対策 99

【高齢者のためのシリーズ】  
最新情報・  
詳細はこちらから→

丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル6階 書籍営業部 TEL(03)3512-3256 FAX(03)3512-3270  
<https://www.maruzen-publishing.co.jp>

丸善出版：発行 FAX(03) 3512-3270

高齢者のための糖尿病診療 定価（本体3,500円+税） 130367-2

冊

高齢者のための感染症診療 定価（本体4,000円+税） 130173-9

冊

高齢者のための漢方診療 定価（本体3,200円+税） 130186-9

冊

お名前

ご住所 県

TEL

※ご注文いただいた個人情報は、書店、取次（流通）・弊社間での商品手配の目的に利用させていただきます。

tom.19.\*\*\*

注文書